

白崎海洋公園

白崎海洋公園の石灰岩形成は白崎海岸のカルスト地形の一部である。カルストは岩盤の溶解によって陥没穴、沈降流、洞窟、泉が形成された地形の一種であり、可溶性岩石の種類によるものである。

この風景は2億5000万年も前になるペルム紀のもので、古代海洋生物の化石が含有されている。白崎海洋公園を訪れた人は、その形成を間近で見て、化石を探し出し、展望台から海岸線を眺めることができる。公園内には、ダイビングサイト、キャンプ場、地元料理を提供するレストランが併設された案内所がある。

白崎海洋公園の地質学的歴史

石灰岩形成とは、貝殻やサンゴなどの生物物質が集まってできた炭酸カルシウムのかたまりである。クリノイド（別名：ウミユリまたはウミシダ）やフズリナ（殻を持つ絶滅単細胞生物）など、古代の絶滅海洋生物の化石が含有されている。フズリナが含有されていることから、公園のカルスト地形と周りの海岸線は、これが絶滅したとされている2億5000万年以上前から存在していたことが分かる。フズリナの化石の大きさは、数ミリから1cmほどで、米粒のように見える。その水平断面は、らせん形になっている。

石灰岩の採石

白崎海洋公園は1897年から1972年まで石灰岩の採石が行われていた。ここで採石された石灰岩は建築の際に、また肥料生産の原材料として使用され、セメントの原材料として使用されるようになった。第2次世界大戦中の短い期間、洞窟を掘り、軍事基地として有人魚雷の保管・打ち上げのために使用していた。

アクティビティ・体験

白崎海洋公園の西側外周部にある石灰岩形成の上に設置された展望台から、カルスト環境を間近に見ることができる。岩は雨によって浸食され、耐カルシウム性植物がギザギザになった隆起の間から伸びている。晴れた日には、紀伊水道の向こうに淡路島や四国の東側沿岸が見えることもある。展望台に立ち寄り、公園の外周部を散策するコースは、30～60分の行程となる。

白崎海洋公園は、キャンプやダイビングの場所として人気がある。キャンプ場には、テントサイトと、キッチンや基本的電気製品が完備されたキャビンがある。離れた場所であることと周辺の石灰石形成により光害が遮断されるために、ここで夜を過ごせば、星を眺めることができる。公園とその周辺には、初心者用のビーチエントリーポイントや、上級ダイバー専用のポートエントリー水中洞窟など、いくつかのダイビングサイトもある。現地のダイビングスクールを通じてダイビングを手配することも可能となっている。